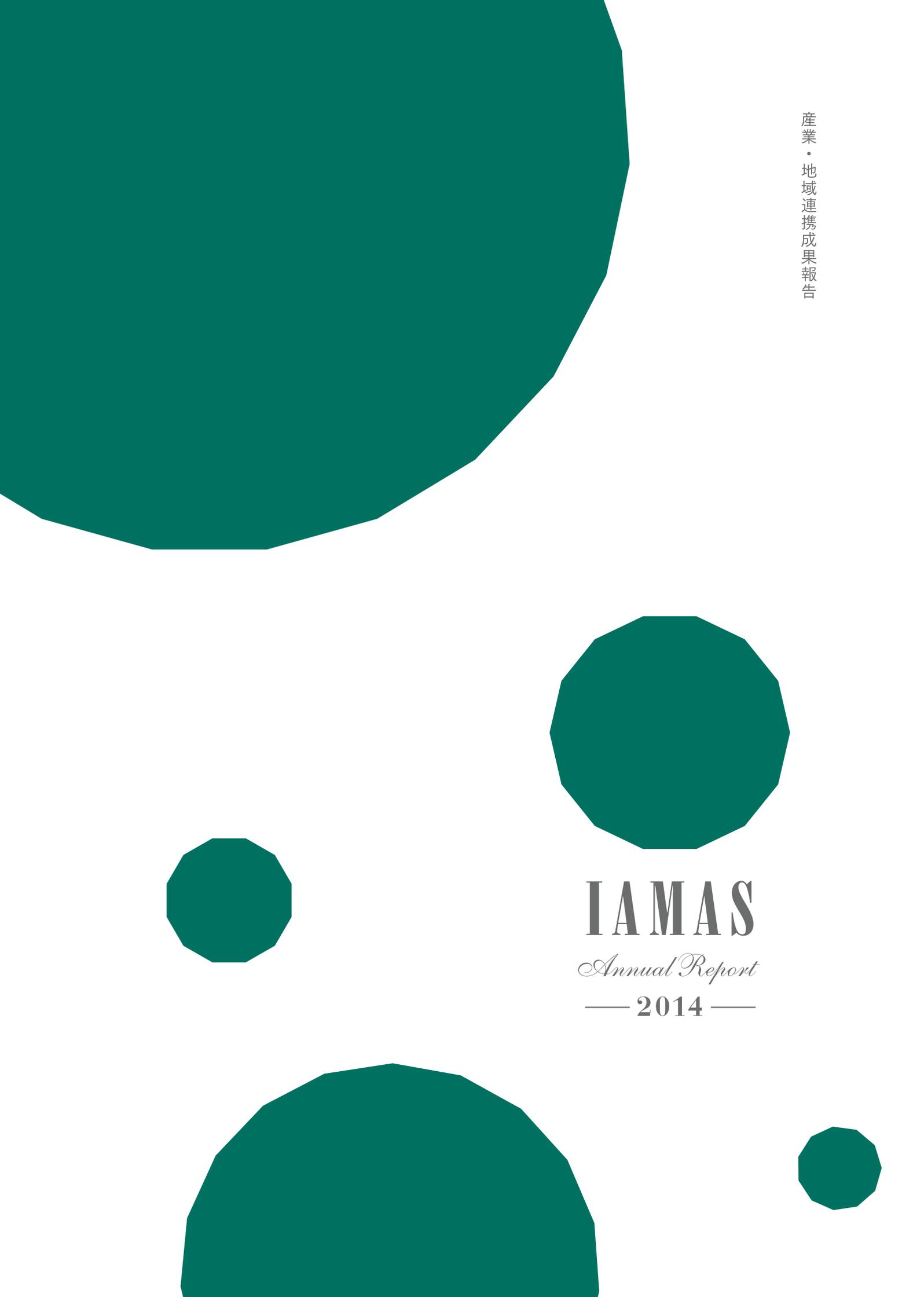


産業・地域連携成果報告



IAMAS

Annual Report

— 2014 —

IAMAS

Annual Report

— 2014 —

Greeting

ごあいさつ

2014年は情報科学芸術大学院大学[IAMAS]にとって節目の年となりました。IAMASは開学以来、領家町の大垣第一女子高校跡をキャンパスとして教育研究活動を行なってきましたが、2014年4月には、ソフトピア地区にキャンパスを移転し、新たなスタートを切りました。

キャンパスの移転は、教員や学生は当然のことながら、自治体、地元企業、文化関係者をはじめ、地元住民の皆様も含めて「IAMASのこれから」について考えていただく、大変よい機会となりました。おかげさまで、地元との連携が一層強まり、加えてグローバル企業との連携、公共施設との連携が進んでおり、今年は40以上に及ぶ多種多様な連携案件が実施、展開されています。

キャンパス移転によって、IAMASが地域社会の皆様にとって身近な存在となり、より地域と密接にかわり続けることにおいて、その期待が一層高まっていることを実感しております。これを真摯に受けとめ、同時に地域と連携した産業文化研究にかかわる成果を引き続き社会にしっかりと還元していきたいと考えております。加えて、今年度はIAMASの卒業生との連携強化にも力を入れており、これまで以上に多様で充実した内容をお届けできたと思います。

IAMAS Annual Report 2014 では、2014年度の産業・地域連携の取組みとその成果をまとめて掲載しました。本年度は連携数が増えた結果、昨年度に発行した3年分の報告書にも劣らないほど充実したボリューム・内容となっております。是非、ご高覧いただき、忌憚のないご意見を賜われれば幸いです。

IAMASでは、来年度も、地域の産業や文化との社会連携プロジェクトを充実させていきますが、実社会のさまざまな局面で地域の活力と文化力向上に向けた成果として幅広く評価していただけるような実りある取組みを展開するべく、努力してまいります。引き続き、関係各位のみなさまのご支援とご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

産業文化研究センター長
金山智子

Contents

目次

● 産業

APIを提供する工作機械を適切な理解の元で普及させるための方法の確立	8
あしたをプロトタイプングするプロジェクト	10
カタルカグ:家具が語りかける将来の生活	12
Craft, Fabrication and Sustainabilityプロジェクト	14
「メディア・地域・鉄道」プロジェクト	16

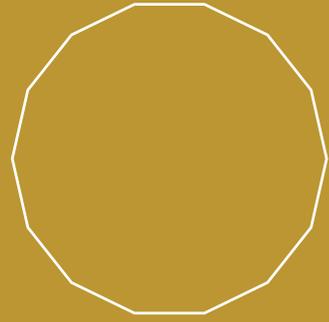
● 文化

編集プロジェクト	20
ハシマ・スマイル	22
羽島まちかげプロジェクト	24
大垣駅自由通路・光プロジェクト	26
アートフルタウン大垣2014	28

● 地域社会

和市和座実行委員会	34
ICT x C プロジェクト	36
美濃のいえプロジェクト	38
OGAKI Drawing Party	40

2014年度 連携事例 + IAMAS 関連イベント 全リスト	42
---------------------------------	----



IAMAS

Annual Report

2014

産業



IAMAS Annual Report 2014

[連携区分]

共同研究

[プロジェクト名]

APIを提供する工作機械を適切な理解の元で
普及させるための方法の確立

[連携先]

ローランド ディー . ジー . (株)

[連携場所]

Maker Faire Tokyo 2014
IAMASイノベーション工房
ローランド ディー . ジー . (株)
東京クリエイティブセンター

[担当教員]

小林茂教授

[連携期間]

2014年7月 - 2015年3月

APIを提供する工作機械を適切な 理解の元で普及させるための方法 の確立

プロジェクトの目的

職人は自分が使う道具を目的に応じてカスタマイズし使いこなす。同様に工作機械のユーザーにもカスタマイズの要求があるが、現行の法律はメーカー自身が製品の製造物責任を負うため、ユーザーが製品に改変を加えることを禁止せざるを得ない。このジレンマを打破してメーカーとユーザーがより良い生態系を構築していくための方法として、メーカー自身が製品を改変するためのAPIを提供して、ユーザーが自由に改変できるようにすることが考えられる。APIを提供する工作機械を適切な理解の元で普及させるための方法の確立に、工作機械や大型プリンタのメーカーであるローランド ディー . ジー . (株) と共に取り組んだ。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

2014年9月に3D切削加工機「SRM-20」の発売を控えた同年7月に、メーカー自身が製品の改変を前提としたAPIを公開するにあたり、適切な理解のもとで普及させたいということで、最初の発表とその後の展開を共同で行えないかという提案があった。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2014年

8 - 9月：発表及びその後のイベントに関するディスカッション
10月：Maker Faire Tokyo 2014 展示準備
11月：Maker Faire Tokyo 2014にて作例を展示
12月 - 2015年1月：monoFab アイデアソンミーティング準備

2015年

2月：monoFab アイデアソンミーティング実施

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

最初の発表の機会に向けた作例をつくり、Facebook上でのグループを運営してオンラインでのディスカッションを促し、アイデアソンの設計と当日のファシリテーションを担当した。



Maker Faire Tokyo 2014で改変を加えた工作機を展示し、多くの来場者の注目を集めた



工作機のカバーを開閉すると無線でiPod touchに通知され、離れていても状態を把握できる



Facebookグループ「monoFab アイデアソン」でイベント前のディスカッションを促進した

連携の成果

Maker Faire Tokyo 2014において適切な理解のもとでAPIを提供する工作機を紹介することができ、ものづくりに関するメディアからも注目を集め、最初の一步を踏み出すことができた。

参加教員のコメント

今後APIを備えた製品が当たり前になることでユーザーとメーカー、およびそれを取り巻く社会全体にとって有益であることを、取り組みを継続することを通じて徐々に周知し活性化させていきたい。





IAMAS Annual Report 2014

[連携区分]

共同研究

[プロジェクト名]

あしたをプロトタイピングするプロジェクト
(電磁場センサを利用したアプリケーションの提案)

[連携先]

(株)豊田中央研究所

[連携場所]

(株)豊田中央研究所

[担当教員]

鈴木宣也教授
赤羽亨准教授

[連携期間]

2014年度

あしたをプロトタイピングする プロジェクト

プロジェクトの目的

(株)豊田中央研究所(豊田中研)はトヨタグループの研究機関であり、自動車をはじめ幅広い分野に向けた研究開発を行っている。このプロジェクトでは豊田中研で開発された[Electro-Magnetic Package]という技術を対象とし、ユーザエクスペリエンスを考慮したアプリケーションの提案とプロトタイプを通して、豊田中研の技術の応用可能性を探った。アプリケーションは自動車への適用に限定するものではなく、私たちの生活全般へ向け、人間中心設計やサービスデザインなどを試行し、アイデア創出では時に自動車の存在自体を再構成することも視野に入れて活動した。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

豊田中研では技術の応用可能性を探る方法論を模索していた。AXISで開催した展覧会に豊田中研の担当者が来場したことがきっかけとなり連携が始まった。中部圏同士ということで距離が近く、話す時間が取りやすいことも決め手になった。

2 プロジェクトの具体的な進め方(スケジュール)

2014年

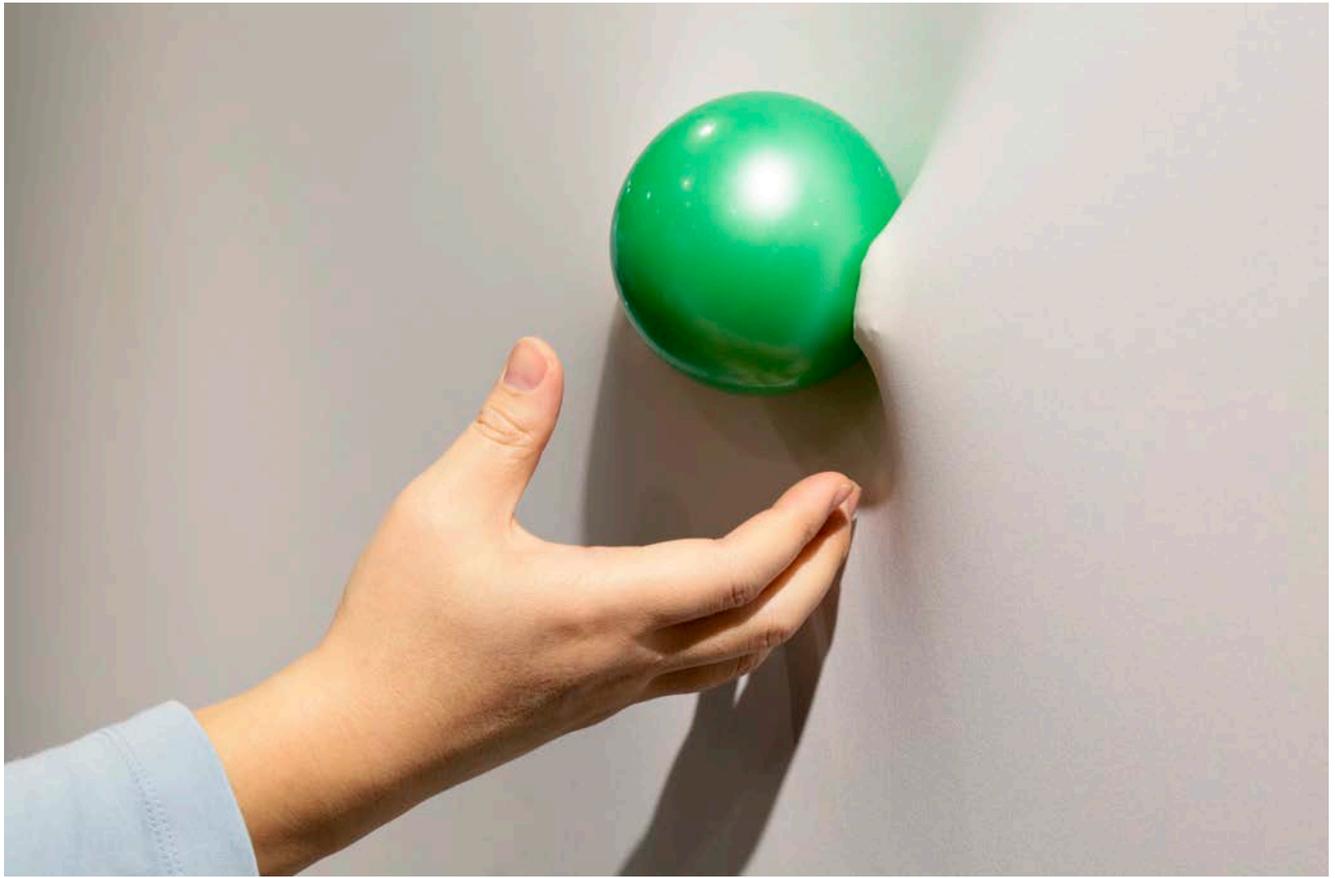
4月：キックオフ
5月：リサーチとアイデアスケッチなど
6月-8月：プロトタイプ制作1
7月：IAMASオープンハウス展示
8月：展示発表(六本木AXISギャラリー)
9月-1月：プロトタイプ制作2

2015年

2月：IAMAS2015展示
3月：学会発表(インタラクティブ2015)

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

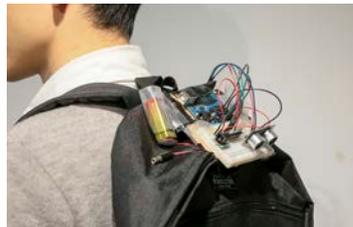
リサーチとアイデア創出を共同で行い、プロトタイプの実装と成果発表や展示をIAMAS側の学生が担当した。また豊田中研の担当者にアイデア創出のテクニック(アイデアスケッチ)のレクチャーを行った。



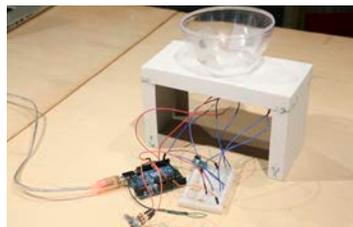
「Hello Wall」体験の様子。椅子に座り壁に身体の一部を近づけると壁が反応。



「Hello Wall」はキャッチとタッチふたつの機能を実装。壁に手を近づけると壁が変形しタッチしてくる様子。



環世界的な視点から生物感を表現するプロトタイプのひとつ。リュックが背後の状況を捉え、リュック自身が振るえる。



器が周りにいる人の様子を捉え揺り動き、その揺れで生物感を表現するプロトタイプ

連携の成果

環世界的な視点から物事を捉え、生物感を持った表現を試みたプロトタイプ「Hello Wall」を制作した。また、このプロトタイプ手法を利用した実験的な2つのプロトタイプを制作した。

参加教員のコメント

企業内の現状や社会との関わり方などを知り、社会における研究について意識した。また新たな技術に接することで、生物感や環世界などの新たな考え方へ広げることができ、非常に刺激的な取り組みになった。





IAMAS Annual Report 2014

[連携区分]

共同研究

[プロジェクト名]

カタルカグ：家具が語りかける将来の生活

[連携先]

(株) GOCCO.
(協力：岐阜県生活技術研究所)

[連携場所]

飛騨・世界生活文化センター

[担当教員]

小林孝浩教授

[連携期間]

2014年度

カタルカグ： 家具が語りかける将来の生活

プロジェクトの目的

空間のエリアを特定する技術には、GPSやiBeacon、無線LAN、非可聴音を使用したものなど様々存在するが、調査したところでは室内50cm程度の範囲において、デバイスの向き、什器や人体による遮蔽、マーカの設置条件等を気にすることなくエリア特定することはできなかった。本研究は、これら条件のもとで位置特定（マーカとの相対位置の特定）できる技術の開発を行った。これにより、不必要なデバイス操作をさせることなく、空間的な情報提示を実現した。例えば、家具のショールームで椅子に座れば、その椅子についての詳細な説明を手持ちの端末に表示したり、ユーザが好む椅子を推測し提案するなどの使用法を想定している。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

本研究は、岐阜県生活技術研究所に協力して開発していた「家具の解説・提案システム」のために当該技術が必要とされたため、(株)GOCCO.との共同研究として進めることとなった。「未来の家具」を提案するプロジェクトとして位置づけられている。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

- 4月： アプリ開発のため、スケジュールや仕様を議論開始
情報提供のため、どの端末を持ったユーザが、どの椅子に座ったかの特定を目指すこととした。
- 6月： 非可聴音によるエリア特定を検証開始
指向性スピーカを試作したが、マーカ（スピーカ）の設置方法が適切に行いにくいことや、デバイスの向きについての制約が強いことなどから、他の方式を検討し始めることになった。
- 8月： 新しいマーカ技術の開発（これ以降が本プロジェクト）
端末側は、スマホ内蔵のセンサだけを使用した新しい通信方式を提案。技術的検証と通信方式の検討を開始。
- 9月： 展示会でお披露目
高山の「飛騨の家具フェスティバル」にて公開した。
- 今後： 技術展開
フェスティバルで引き合いのあった家具メーカーにてシステム（端末側のアプリを含む）を仮導入する予定。

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

アプリケーションの仕様検討、開発及び、エリア特定に関する従来技術を検証した。また、新しい通信方式の考案（物理的方法、プロトコル、符号化）、回路を試作、検証した。その他、回路設計、通信実装へのアドバイスをを行った。



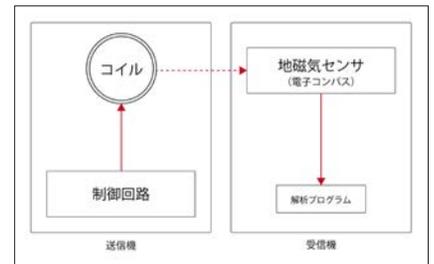
体験の様子



マーカの外觀



システムの説明



システム構成図

連携の成果

家具とヒトとの新しいインタラクション「カタルカグ」という概念の提案に至った。今後はショールームでの実演を行いつつ、新しい展開を探っていく。

参加教員のコメント

ショールームでの利用を目的として開発したため、マーカ(送信機)を目立たせないことや画面タップなどの操作なしに動作することを狙ったが、既存技術では達成困難だったため、当該技術の開発に至った。





IAMAS Annual Report 2014

[連携区分]

共同研究

[プロジェクト名]

Craft, Fabrication and Sustainability
プロジェクト

[連携先]

(株) TAB

[連携場所]

IAMAS イノベーション工房 [f.Labo]

[担当教員]

小林茂教授 (代表者)
James Gibson 准教授
山下健研究補助員

[連携期間]

2014年度

Craft, Fabrication and Sustainability プロジェクト

プロジェクトの目的

3Dプリンタやレーザー加工機、CNCといったデジタル工作機械によりデジタルデータを元に「製造」するデジタルファブリケーションは、デジタル工作機械を備えた市民工房とその世界的なネットワークである「FabLab」などを中心に「ファブ」として広く認知されつつある。一方で、手作業を中心に発展してきた工芸においても、ファブを手法として取り入れようとする動きが出てきた。これら2つの要素の掛け合わせによる新しい産業領域の可能性は概念としては提唱されているものの、製品として成立する実例が少ないという状況であった。最初から経済的な持続可能性も視野に入れ、新しい領域の可能性を探求することが目的である。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

大垣市の建築設計事務所「(株)TAB」は、住宅やオフィス、店舗の設計や改装だけでなく、デジタルファブリケーションで家具やインテリアなどのプロダクトも製作している。IAMASに大型のCNCが導入されるのをきっかけに共同で取り組むことになった。

2 プロジェクトの具体的な進め方 (スケジュール)

2014年

4-6月: 大型CNC「ShopBot」の導入

7月: ちょいみせキッチンおよびIAMASオープンハウスにて事例展示

8月: Ogaki Mini Maker Faire 2014にて「第3回展開図武道会」を開催

9月: 港町ポリフォニーの会場什器を製作して展示

11月: 展示用什器を製作してMaker Faire Tokyo 2014にて展示

2015年

2月: IAMAS 2015にて展示

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

(株)TABと共同でShopBotの活用方法を探求し、作例を制作した。



大垣駅前商店街にあるレンタルスペース「ちょいみせキッチン」の照明器具を製作



佐久島の展望台をアルゴリズムックデザインとデジタル工作機械を活用して製作



KIITO (神戸市) のイベント「港町ポリフォニー 2014」の会場什器を製作



運搬と設営、撤収が容易なカゴ台車ベースの展示什器をデジタル工作機械を活用し製作

連携の成果

手芸とファブを掛け合わせたプロダクトの可能性と課題に関して、実案件と展覧会を通じて探求した。大型のCNCを導入した場合のビジネスモデルに関して、実例を元にしたシミュレーションを行うことができた。

参加教員のコメント

次年度はパートナーを増やし、今回扱った比較的低価格な家具やインテリア以外の多様な分野における可能性の探求を行っていきたい。また、こうした活動を周知するため、展覧会やワークショップも開催していきたい。





IAMAS Annual Report 2014

[連携区分]

地域連携

[プロジェクト名]

「メディア・地域・鉄道」プロジェクト

[連携先]

樽見鉄道(株)
明知鉄道(株)
長良川鉄道(株)
養老鉄道(株)
(株)エフエム岐阜
(株)コスモネット

[連携場所]

岐阜県各地

[担当教員]

金山智子教授 平林真実教授
城一裕講師 瀬川晃准教授

[連携期間]

2013年—2014年度

「メディア・地域・鉄道」 プロジェクト

プロジェクトの目的

ローカル鉄道の車両、駅、周辺地域をユニークなメディア空間としてとらえ、新しいインタラクションを実装させ、これまでにない表現を模索することを目的としている。今年度は、様々なテクノロジーによる実験を重ね、成果を一般向けの企画として実現させた。また、地元企業や地域メディアとの連携を拡げた。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

2012年のプリベアド・トレイン、たるてつプロジェクトを経て、2013年よりプロジェクトとして開始した。昨年より、小川財団特定研究助成を頂き様々な機材やテクノロジーを使った実験を重ねている。

2 プロジェクトの具体的な進め方(スケジュール)

2014年

6月 : クラブトレイン実施

12月 : クラブトレイン実施(一般向け)

クリスマストレイン実施(一般向け)

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

基本的にIAMAS主導で企画、樽見鉄道がそれに協力するという体制ですすめた。



DJにとっても新しい体験



子どもたちも、ダンス、ダンス、ダンス!!



窓に設置されたiPadの反応にビックリ



あわわ、丸がでたよ!



ヘッドマークは前と後ろで違う



LEDの色々な模様が浮かび上がるヘッドマーク

連携の成果

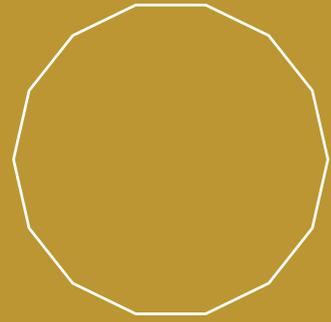
クラブトレインやクリスマストレインでの新しいインタラクションや経験について、一般乗客や実験の被験者から大変好評で、ポジティブな意見を頂くことができた。

参加教員のコメント

ローカル鉄道を活用した新しいインタラクションを通して、多くの人たちにこれまでにない驚きや楽しさを提供することができ、さらなる可能性の模索につなげることができた。







IAMAS

Annual Report

2014

文化



IAMAS Annual Report 2014

[連携区分]

地域連携

[プロジェクト名]

編纂プロジェクト

[連携先]

垂井町観光協会
池田町教育委員会
(協力：垂井町文化財保護協会、
タリピアセンター、
(株)小見山家具製作所)

[連携場所]

垂井町・関ヶ原町・赤坂町・池田町

[担当教員]

瀬川晃准教授
入江経一教授
金山智子教授

[連携期間]

2013 — 2014年度

編纂プロジェクト

プロジェクトの目的

編纂とは？ いろいろな材料を集め整え書物を作ること。地層のように折り重なる風土から想像を膨らませ、新しい視点での創作を目的とした。物語、図鑑、スケッチ集など、各自の妄想を織り交ぜながら新しい解釈の形態（本）へまとめ、対象地域の人々への展示やプレゼンテーションを行う。フィールドワークでは撮影や対象者との対話から、その場で感じたこと発見したことを持ち寄り、さまざまな事象となる点と点を繋げる。視点や興味の違いや共通点を探り、風土で育まれた潜在的な魅力を発掘する。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

2012年度国土交通省が全国の景観保全活動を進めるなか、岐阜建築士会と大垣市のNPO法人が助成を受け、入江教授とともに「歴史的文化とその景観」というテーマで調査を行った。その報告書をきっかけに2013年度よりプロジェクトを立ち上げ、垂井町観光協会との連携を始めた。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2013年

6月－10月：フィールドワーク（垂井町・関ヶ原町）
7月：各学生がテーマを設定・学内展示（オープンハウス2013）
11月－12月：造本設計、試作、レイアウト

2014年

2月：プロジェクト成果展示（ソフトピアジャパン）
3月：冊子納品＋配布（7種 x 100冊）
4月：垂井町での展示を検討（垂井町観光協会）
6月－12月：フィールドワーク（赤坂町・池田町）
7月：プロジェクト成果学内展示（オープンハウス2014）
8月：作品選定と広報
9月26日－10月10日：展示（タリピアセンター）
9月28日：プレゼンテーション（タリピアセンター）
11月－12月：造本設計、試作、レイアウト

2015年

2月：プロジェクト成果展示（ソフトピアジャパン）
3月：冊子納品

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

調査ではピックアップした場所・施設・人を尋ね、撮影やスケッチとディスカッションを通じてアイデアを展開し、試作から造本までを主体的に学生自身がプロジェクト内で進め、その成果を展示・発表した。



「垂井から生まれた『7冊の妄想本』」（2013年度研究成果）



美濃いび茶栽培の説明を受けているメンバー（池田山麓）



古墳発掘調査体験（願成寺古墳群）



御嶽神社への入口を探しながら妄想を膨らますメンバー（美濃国分寺付近）



「垂井から生まれた『7冊の妄想本』」展示（タルイピアセンター）



関ヶ原・垂井景観調査報告書より特徴を分類したマップ



プレゼンテーション後、聴講者から興味深い質疑へ応答（タルイピアセンター）

連携の成果

新しい地域の見方・魅力を再発見して冊子にまとめ、ソフピアジャパンでの展示や、タルイピアセンターの展示とプレゼンテーションを行い、来場者との意見交換の機会場の場を設けることができた。

参加教員のコメント

出身地の異なる学生の新鮮な眼差しで建築様式や地名の由来を住民や関係者に尋ねて資料を探り、歴史研究や町おこしとは違った、普段見過ごされそうな事柄を発見しながら、創作が生まれる過程に立ち会えた。





IAMAS
Annual Report
2014

[連携区分]

地域連携

[プロジェクト名]

ハシマ・スマイル

[連携先]

羽島商工会議所

[連携場所]

羽島市

[担当教員]

赤松正行教授

[連携期間]

2014年4月—10月

ハシマ・スマイル

プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は、羽島市で開催される「なまずまつり」においてドイツ人メディア・アーティストWolf Nkole Helzle氏とともに市民参加型のメディア・アート作品「ハシマ・スマイル」を共同制作し、展示上映を行うことであった。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

「なまずまつり」を主催する羽島商工会議所では、従来のお祭りにはないユニークな催しを行いたいとの要望があり、メディア・アート作品の制作が活発に行われている研究機関としてIAMASに打診があったことがきっかけとなった。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2014年

- 4月29日：意見交換、会場視察
- 5月16日：企画提案、意見交換
- 5月21日：基本プランの策定
- 5月28日：意見交換、会場視察
- 5月30日：基本プランの承認
- 6月27日：会場視察、機材テスト
- 7月29日：会場視察、機材テスト
- 9月17日：資材の仮組、機材テスト
- 10月01日：会場視察、機材テスト
- 10月19日：制作補助スタッフへのガイダンス
- 10月21日：制作開始、市民撮影、映像処理
- 10月24日：機材設営
- 10月25日：オープニング・セレモニー、パフォーマンス、展示
- 10月26日：機材撤収

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

メディア・アート作品の企画制作および展示上映を行った。



アーティスト・トーク、左より山北将誉（羽島商工会議所）、赤松正行（IAMAS）、Wolf Nkole Helzle氏（アーティスト）



パフォーマンスのオペレーションを行うアーティストとIAMAS学生たち



夜遅くまでに賑わう商店街でも「ハシマ・スマイル」を上映

連携の成果

市民参加型のメディア・アート作品「ハシマ・スマイル」を制作し、なまざまつりにおいて展示上演した。オープニング・セレモニーでは地元の和太鼓グループ「羽島太鼓」との共演も行った。

参加教員のコメント

完成した既存の作品を展示するのではなく、羽島商工会議所を始めとする地域の方々の協力を得ながら、市民参加型の作品を現地で制作し、展示上演することができた。





IAMAS Annual Report 2014

[連携区分]

地域連携

[プロジェクト名]

羽島まちかげプロジェクト

[連携先]

羽島文化協会

[連携場所]

羽島市

[担当教員]

金山智子教授
赤松正行教授

[連携期間]

2014年度

羽島まちかげプロジェクト

プロジェクトの目的

羽島市政60周年記念「はしまアートフェスティバル2015」での展示に向けて長期的に羽島市と関わりながら街をテーマにインスタレーション作品「まちかげ」を制作した。

「まちかげ」は対象の街のフィールドワークを元に、実際の街の構築物の数々から形を影として表現する。街に対する新たなメディアとして作品を制作することで、それまで見えなかった街の側面を見つけることを目標としている。過去に対象とした大垣市・美濃市とは違い、羽島市では作品鑑賞だけではなく、作品が出来るまでのプロセスに市民の人たちも関わられるような参加型作品を目指した。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

羽島市文化協会より、羽島市政60周年記念として作品展示の依頼を受け、こちらから「まちかげ」を提案した。2013年度の卒展展示で羽島市文化協会の関係者の方々が実際に「まちかげ」を観て、羽島市政60周年事業の一環として作品として決定した。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2014年

- 2月：文化協会関係者による「まちかげ」展示視察
- 4月：初回打合せ
- 5月：文化協会関係者と現地視察
- 8月：第一回フィールドワーク実施
はしまサマーフェスティバル参加（ブース展示・ヒアリング調査）
- 10月：第二回フィールドワーク実施
「まちかげ」プレ展示（なまず祭り）
- 11月：ワークショップ開催
NHK「ほっといブニングぎふ」出演

2015年

- 1月：第三回フィールドワーク実施
- 2月：羽島市政60周年「はしまアートフェスティバル2015」展示

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

文化協会関係者や市の担当者や打合せしながら、「はしまアートフェスティバル2015」での展示までの半年間、作品制作、ワークショップ企画と実施、チラシデザイン、フィールドワーク、地域イベントへの参加と展示を行っている。



羽島の街でフィールドワークを実施



はしまサマーフェスティバルで市民に羽島イメージを聴く「まち語りカフェ」を開催



なまず祭で「羽島まちかげ」を初めて披露。商店街の空き店舗で作品の一部を事前展示



4つのテーマに分けた羽島の地図に、市民が自分の街のイメージを書き込む



街にある建物や看板の切り絵を使って、手のひらサイズの羽島を作るワークショップを開催



プロジェクト集大成となった2月の展示。大きな会場で、子供たちのダンスとのコラボなど、初めての体験も多い

連携の成果

地元メディアや大手メディアにも取り上げられた他、来場者からはプロジェクトに興味をもつ声や、「街に対する新たな発見があった」という反応があった。プロセスを通して、街の人たちに新しい街の見方を提示できた。

参加メンバーのコメント

長期的に羽島市と関わりながら、街のどのような側面を抽出するのか、地元の人々の声をどのように聴いていくかなど、試行錯誤しながら進めていく中に面白さと難しさを感じた。



写真：製作者の鍋谷美華さんと高畑慧さん



IAMAS
Annual Report
2014

[連携区分]

展覧会

[プロジェクト名]

大垣駅南北自由通路・光プロジェクト

[連携先]

大垣市（市街地整備課）
IAMASメディアサイト研究会

[連携場所]

大垣駅南北自由通路

[担当教員]

安藤泰彦教授
平林真実教授
小林孝浩教授

[連携期間]

2014年度

大垣駅南北自由通路・ 光プロジェクト

プロジェクトの目的

「メディアサイト研究会」は、日常見慣れた場所の光景を様々なメディア技術を用いて「もう一つの風景」として演出し、場所と人との新たな交流の場を生み出すことを目指している。今回のプロジェクトは、多くの利用者が通る大垣駅南北自由通路に、2回に分けてメディア作品を設置し、人々が集う賑わいの創出を図ることを目的とした。最初の「トランス・フロア」では、歩行者に反応するインタラクティブな映像を床面上に投影するものであり。次の作品「リレーショナル・ポッド」は、通路に配置された19個の円筒形のオブジェの照明が、観客のアクションによって様々に変化し、連鎖して明滅する。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

大垣市（都市計画課）からの依頼により、大垣駅南北自由通路の光の演出を引き受ける。IAMASの学生や卒業生の活動・活躍の場として利用することも含め「IAMASメディアサイト研究会」を立ち上げ、業務を受け入れる態勢をとった。

2 プロジェクトの詳細

◎自由通路・光プロジェクト第一弾

「トランス・フロア」Trans-Floor

開催日時：2014年10月31日（金）、11月1日（土）、2日（日）

午後6時～9時（3日間の展示）

場所：大垣駅南北自由通路

概要：「トランス」は、「～を通して」という意味や、「別の状態への変化」という意味がある。床面に2台のトラス構造物が設置され、その間を通る歩行者が床面に投影された映像の変化を楽しむ。

◎自由通路・光プロジェクト第二弾

「リレーショナル・ポッド」 Relational Pods — 光の水面

開催日時：2014年12月24日（水）～2015年1月25日（日）

午前7時～午後10時（約1ヶ月間の展示）

場所：大垣駅南北自由通路

概要：水の流れをイメージして通路に配置された19個のポッド（光の水面）が、歩行者のアクションによって様々な色に変化し、連動して明滅する。水と関わる様々な行為を歩行者に連想させながら、光の波紋が広がる。普段見慣れた大垣駅南北自由通路が、楽しめる通路に生まれ変わる。

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

IAMASの卒業生や学生（体験拡張プロジェクト、アートを1で考えるプロジェクト所属）がメンバーとなり立ち上げた「IAMASメディアサイト研究会」を通して関わる。



「トランス・フロア」体験風景



「リレショナル・ポッド」展示風景

連携の成果

大垣駅を通行する多くの人に楽しんでもらうことができた。公共の場でのメディア作品の利用法の一例となった。

参加教員のコメント

大垣駅自由通路という公共の場所は、通常では作品の設置が難しい場所である。今回は依頼内容とIAMASの研究方向が合致して大きな成果を出すことができた。



05

文化

IAMAS
Annual Report
2014

[連携区分]

展覧会

[プロジェクト名]

アートフルタウン大垣2014

[連携先]

アートフルタウン実行委員会
大垣市(商工観光課)

(後援:大垣商工会議所、大垣市商店街振興組
合連合会、大垣市観光協会)

[連携場所]

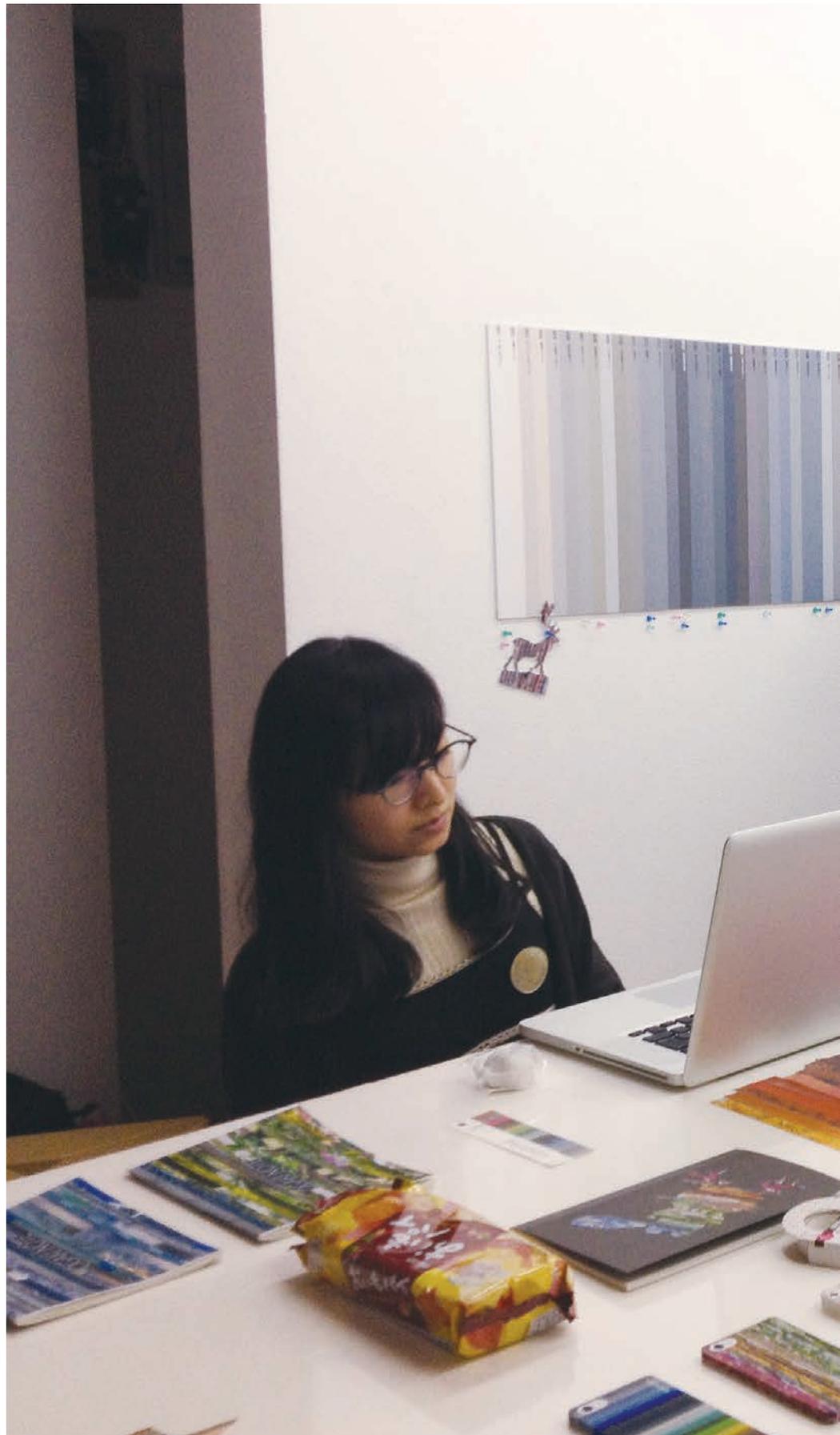
イアマスOS 3.0
(大垣市中心市街地にある展示空間)

[担当教員]

安藤泰彦教授
金山智子教授
鈴木宣也教授

[連携期間]

2014年度





『大垣色見本帖』展 大垣のまちから抽出した色で作った色見本から好きな色を選ぶ

「アートフルタウン大垣2014」 参加展示・「IAMAS WORKS」

プロジェクトの目的

奥の細道むすびの地記念館への誘客促進や中心市街地のにぎわい創出を図ることを目的として開催される「アートフルタウン大垣2014」（大垣市主催）に参加し、大垣市民へのIAMASの周知や市民との交流場面を増やすと同時に、学生の作品・活動の発表の場として、それぞれの制作・研究に役立てることを目的とする。IAMAS学内プロジェクト共同運営による、中心市街地の展示空間「イアマスOS 3.0」を活用し、「アートを/で考えるプロジェクト」「あしたをプロトタイプするプロジェクト」「美濃のいえプロジェクト」の3プロジェクトによる連続企画展示を行う。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

大垣市内を展示会場とした「岐阜おおがきビエンナーレ」を隔年開催してきたこともあり、大垣市（商工観光課）から「アートフルタウン大垣」への参加依頼があり、2012年度より「アートを/で考えるプロジェクト」の学生を中心に協力展示を行ってきた。

2 プロジェクトの詳細

3つのプロジェクトによる連続企画展示

企画1『microscopic』展（アートを/で考えるプロジェクト）

会期：10月3日（金）、4（土）、5日（日）

概要：三宅 由里子（院2年生）の作品展示・

ラットの卵巣細胞の顕微鏡写真をもとに銅版画を作成。

企画2『-A- Switch』展（アートを/で考えるプロジェクト）

会期：10月11日（土）、12日（日）、18日（土）、19日（日）

概要：「スイッチ」をテーマにした、永田 美樹、project GaKyuH（院1年生）の作品展示

企画3『触楽』展（あしたをプロトタイプするプロジェクト）

会期：10月25日（土）、26日（日）

概要：見るだけではわからない、「触れて」「楽しむ」3点の作品を展示。
多数のスイッチによる作品、動く壁の作品、走って発電する作品など。

企画4『大垣色見本帖』展（美濃のいえプロジェクト）

会期：11月1日（土）、2日（日）、3日（祝）

概要：大垣の街の特徴的な色を抜き出して、色見本帖を展示。
街の人が選ぶ「大垣らしい」色によって、新たな色見本帖を制作。

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

イアマスOSの看板制作などの整備やとりまとめを「アートを/で考えるプロジェクト」が担当し、学内の三プロジェクトがそれぞれに独自企画で展示。



IAMASOS会場整備風景



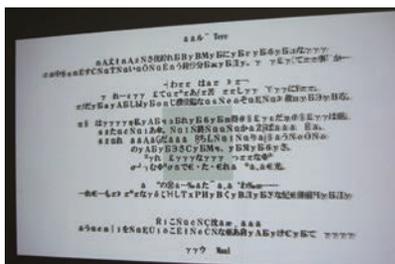
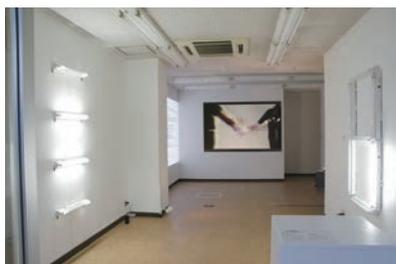
『触楽』展 展示風景



『microscopic』展 展示風景



『大垣色見本帖』展 色見本や柄見本を使ったサンプル



『-A- Switch』展 展示風景

連携の成果

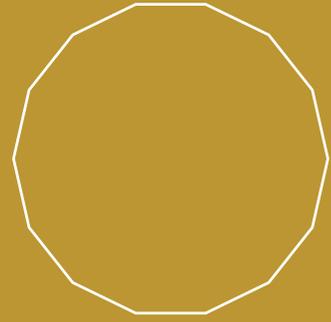
IAMASの研究・制作の一端を多くの市民に示すことができ、また今後の学生の研究・制作にとっても、様々な意見や感想を得ることができ、よい機会となった。

参加教員のコメント

多くの一般客が訪れ、多様な意見を聞くことができた。リピータもあり、展示を楽しんでもらえた。







IAMAS

Annual Report

2014

地域社会



IAMAS Annual Report 2014

[連携区分]

イベント

[プロジェクト名]

和市和座実行委員会

[連携先]

Neco Republic
(有) カサアンドカンパニー
大垣市 石黒塾

[連携場所]

大垣市
岐阜市

[担当教員]

金山智子教授 鈴木宣也教授
クワクポリョウタ准教授 瀬川晃准教授
八嶋有司研究員 星卓哉情報支援専門職
池田泰教システム管理専門職
中上淳二システム管理専門職

[連携期間]

2014年度

和市和座実行委員会

プロジェクトの目的

和市和座とは、猫と人間との共生をめざし、幸せな猫たちを増やすための啓蒙活動。猫好きによる、猫のための、猫フェスを企画運営する。また、2012年に米国で始まり、既に1万人以上の人たちが集まるイベントとなったInternet Cat Video Festivalを、日本で初めて開催する。さまざまなイベントを通して、猫との幸せな暮らしの提案や、猫たちの幸せな生活を守る方法を、みなさんと一緒に考え、実践することが目的である。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

猫カフェを運営する仲真麻花さんが、保護猫の活動を啓蒙するためのイベントを企画していた。ナカモリケンさんが卒展に来場し、教員のトークを聞き、Neco RepublicとIAMASとのコラボレーションを提案することから始まった。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2014年

4月：キックオフ

5月：Internet Cat Video Festivalの企画と
大垣元気ハツラツ市の出展企画

6月：実行委員会設置
ロゴマークデザイン

7月：IAMASオープンハウス展示

8月：準備

9月：大垣元気ハツラツ市にて和市和座実施

岐阜駅前広場にてGifu Internet Cat Video Festival実施

10月ー2月：和市和座の準備

2015年

3月：京都にて和市和座実施

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

イベントの企画・運営・広報は実行委員に関わるメンバーと共同で実践した。また、ロゴマークやチラシのデザイン、また映像コンテンツの制作と映像機器の設置・操作など、IAMAS側で担当した。ボランティアで学生も活動に加わった。



和市和座の出展風景



iamasOSで実施したモビールを作るワークショップ



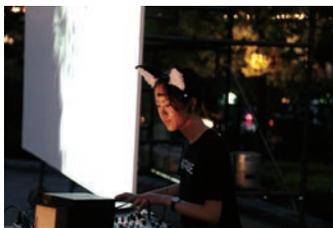
杉本彩さんと仲眞麻花さんのトークショー



ボランティアで司会してくれた卒業生DJ Sunshineさんと、ゲストで来てくれたミナモ



信長像の前に設置した巨大モニターでCat Video Festivalを上映



ネコDJによるパフォーマンス



Gifu Internet Cat Video Festivalの上映風景

連携の成果

大垣元気ハツラツ市で和市和座を実施し、猫にまつわる約20のブースを設け、ゲストに杉本彩さんを招いた。また、Gifu Internet Cat Video Festivalではアメリカと日本の猫の映像を上映し、約3,000名が参加するイベントとなった。

参加教員のコメント

保護猫という単なる動物愛護に思える活動を通じて、地域あるいは社会との関わりの中から見える社会システムの課題抽出と、デザインや情報技術の利用だけでなくメンバーとの共創による活動は、実践的研究として新たな良い経験となった。





IAMAS
Annual Report
2014

[連携区分]

共同研究

[プロジェクト名]

ICT × C プロジェクト

[連携先]

大垣市 (情報企画課)
(株) GOCCO.

[連携場所]

青墓幼保園
丸の内保育園
中川幼稚園

[担当教員]

小林茂教授
James Gibson 准教授

[連携期間]

2014年度

ICT x C プロジェクト

プロジェクトの目的

私たちはいかにして、大垣の子供達のための創造的な教育アプリケーションをデザインしていくべきだろうか。近未来の教育の姿を考えたとき、ICT技術が今よりさらに急速に教育現場に活用されていく事は、容易に想像ができる。私たちは地元大垣市のデザイン会社である(株)GOCCO.と協働し、実際の現場に導入できるiPadアプリケーションの開発に取り組んだ。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

市の政策として情報産業の育成と子育てで日本一の街を目指す大垣市から、幼稚園/保育園/幼保園におけるITの活用に関して、園に導入されているiPad、AppleTVを活用したコンテンツを開発できないかと相談があった。

2 プロジェクトの具体的な進め方 (スケジュール)

2014年

- 4月： 作年度までの研究成果をIAMAS、大垣市役所、GOCCO.三者で共有
- 5月： 中川幼稚園、牧田保育園での職員への聞き取り調査および現地調査を実施
IAMAS、GOCCO.共同でのアイデアディスカッション
- 6月： 大垣市側にプレゼンテーション
情報企画課、子育て支援課、教育委員会からのフィードバックを元に再度アイデア検討
- 7月： 再度大垣市側にプレゼンテーション
フィードバックを踏まえてプロトタイプを開発
- 8月： 西幼稚園、北保育園でのプロトタイプ評価
- 9月 - 10月： 製品版実装
- 11月： 市長会見にてプレスリリース

2015年

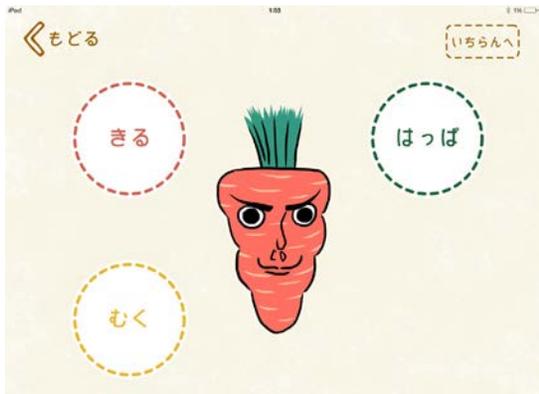
- 1月： 各園にて運用開始

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

昨年度の研究実績を踏まえながら、新たな視点で複数の幼稚園/保育園へ現地調査を行い、新しいアウトプットの方向性について教育的観点/技術的観点からアイデアディスカッションと開発を続けた。



「食育」をテーマに、今日食べた食材を振り返るためのアプリケーション



14種の食材をキャラクタライズして提示し、新たな興味を喚起する



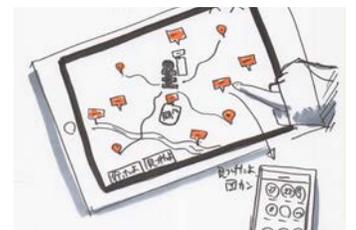
実証テストの様子。先生がiPadを操作し、その様子がAppleTVに表示されている



様々なメディアを混合させた教育手法を先生が各々工夫して取り組んでいた



普段は気に留めない食材でも、キャラクタライズされる事で、新たな興味を喚起している



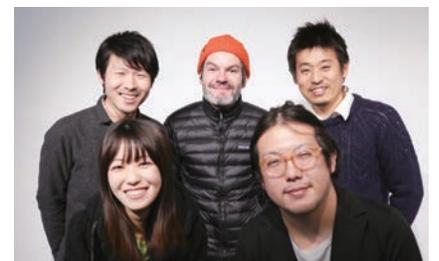
アイデアスケッチ (一部)

連携の成果

幼児の反応に対する見識、教育的視点での見解について、昨年度の研究実績を共有しながら多角的な視点でのアイデアディスカッションを進めることができ、より効率的に具体的なアウトプットの考案につながった。

参加教員のコメント

IAMASの現学生と卒業生達で構成されるGOCCO.とのコラボレーションは、将来のICT技術が活用された新たな教育システムをデザインしていく上で、小さいかもしれないが高い価値のある一歩である。





IAMAS Annual Report 2014

[連携区分]

地域連携

[プロジェクト名]

美濃のいえプロジェクト

[連携先]

美濃市役所
美濃デザインチーム
美濃観光協会
うだつの町並み商店
県立森林文化アカデミー

[連携場所]

美濃市

[担当教員]

入江経一教授
小林昌廣教授
金山智子教授

[連携期間]

2013年—2014年度

美濃のいえプロジェクト

プロジェクトの目的

本プロジェクトでは美濃市の古民家「IAMAS美濃のいえ」を拠点に、創造活動と地域に親しまれる場づくりを行ってきた。本年度はさらにこれらの活動が進化し、この町に新たな共同体を生み出す場として地域の人々との交流を広げている。それらは一過性のイベントではなく地域で根を張り、人々の関係性を編み上げる活動である。一例として、美濃和紙工場で残った裁ち落としを利用し、住民や観光客と和紙のオブジェを制作する「美濃トロック」、あるいは庭に築いた石窯を囲んで、人々と食や会話を楽しみながらこれからの地域の活動について語り合う場作りなどがある。地域の人々が自ら表現する取組みが、本プロジェクトを契機に始まろうとしている。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

2011年から始まった美濃プロジェクトは、2013年からは「うだつの町並み」にある古民家を借りて「IAMAS美濃のいえ」としてIAMASの活動を紹介するだけではなく、地域の生活に根ざした思考と視線の元に、地域の人たちと一緒に様々な表現と創造活動を実践している。

2 プロジェクトの具体的な進め方（スケジュール）

2014年

- 4月： 茶処・美濃の花祭りに休憩所を提供
- 5月： 影絵屋・美濃の街をシルエットにしたインスタレーション
- 6月： 石窯づくり・学生が設計し、自ら築く
- 7月： 窯びらき・新たに築いた石窯のおひろめで料理をふるまう
- 8月： 流し家（家中を巡る流しそうめんを行った）
お化け屋敷・家全体を展示空間としてメディア作品などを展示
- 9月： 街に潜ろう 窯で食べよう（修士2年石川琢也）
- 10月： 美濃トロック・余った裁ち落としの和紙を使ってランプ作り
Sweet Halloween・家の中に隠されたスイーツを探す
- 11月： 石窯開放（修士2年石川琢也）
大垣色見本帖（大垣アートフェスティバル参加）
- 12月： こよみのよぶね作業・美濃の人たちと「こよみのよぶね」
に出展する和紙を使ったアート制作のお手伝い

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

企画から実施に加え、地域コミュニティ関連イベントのお手伝い



庭で行なわれた窯びらきの儀



子どもたちが興味津々の石窯



襖の奥に浮かぶ口が話しかける（お化け屋敷）



暗闇の中、妖しい光の中で踊る（お化け屋敷）



不要な裁ち落としの和紙を使ったランプづくり



みんなで作った和紙のクモの巣やランプで飾付け

連携の成果

プロジェクトも2年目となり、美濃のいえの認知も上がり、地域の人たちの参加も増えている。美濃のいえをよりオープンにすることで、地域の人たちの創造的な活動を誘発する機会や場所へと変化してきている。

参加教員のコメント

本年度は、美濃の庭を整備し、新しく調理用の石窯を作ったことで、これまで以上に地域に向けてオープンな空間と時間を創造することができた。これは、美濃の共同体の力を引き出すことにつながっている。





IAMAS Annual Report 2014

[連携区分]

イベント

[プロジェクト名]

OGAKI Drawing Party

[連携先]

芭蕉元禄大垣イルミネーション実行委員会
(株) ヤナゲン
グレイセル(株)
石黒塾
近鉄不動産(株)
(株) エフエム岐阜
大垣市

[連携場所]

ヤナゲン大垣本店 A館特設会場

[担当教員]

金山智子教授
中上淳二システム管理専門職

[連携期間]

2014年8月ー2014年12月

OGAKI Drawing Party

プロジェクトの目的

大垣市芭蕉元禄大垣イルミネーションの一環として、ヤナゲン大垣本店 A館北側側面を使った市民参加型の新しいメッセージ投影を企画・実施した。特設会場では、DJの音楽に合わせてメッセージを描き、その場で踊るメッセージを観て、楽しめる演出を行なった。在校生と卒業生が企画運営担当し、大垣商店街や自治体、グレイセル(株)、(株) エフエム岐阜、(株) 大京、近鉄不動産(株)、戸田建設(株)、岐阜のDJたちなど、多様な産官学の連携によって実現が可能となった。

連携のプロセス

1 連携のきっかけ

大垣駅南街区再開発工事中の期間中、大垣駅からヤナゲン大垣本店 A館が見通せるようになることから、クリスマスイルミネーションに合わせて壁を使った映像展示の企画を(株) ヤナゲンより依頼された。

2 プロジェクトの具体的な進め方(スケジュール)

2014年

8月: ヤナゲン本店店長の原さんと依頼内容について初回打合せ

9月: 企画案の展示と検討

10月: 企画案詰め

石黒塾(大垣市商店街若手街づくり団体)へ企画説明

大垣市芭蕉元禄大垣イルミネーション実行委員会(承認)

11月: 大垣駅南街区市街地再開発組合へ説明(現場調整・承認)

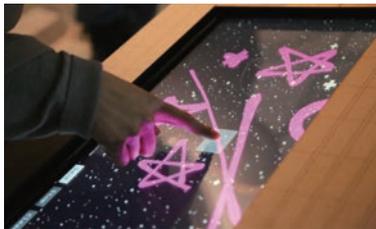
石黒塾(デモ・承認)

12月: 3日-7日、17-21時開催

ウェブサイトでのアーカイブ公開(~2015年1月)

3 IAMASはプロジェクトにどう関わったか

OGAKI Drawing Partyの企画、運営体制の構築と運営。施設や会場、設営、コンテンツなど、プロジェクト進行に必要な連携関係の構築。



好きなものをドローイングすると踊った



順番に描いては投影されたメッセージを撮る



いいのが描けたらみんなで楽しむ



盛り上げてくれた岐阜のDJ Rockman



家族で仲良くドローイング



立ち寄って参加する地域のご婦人たち



プロジェクトメンバー及びスタッフ

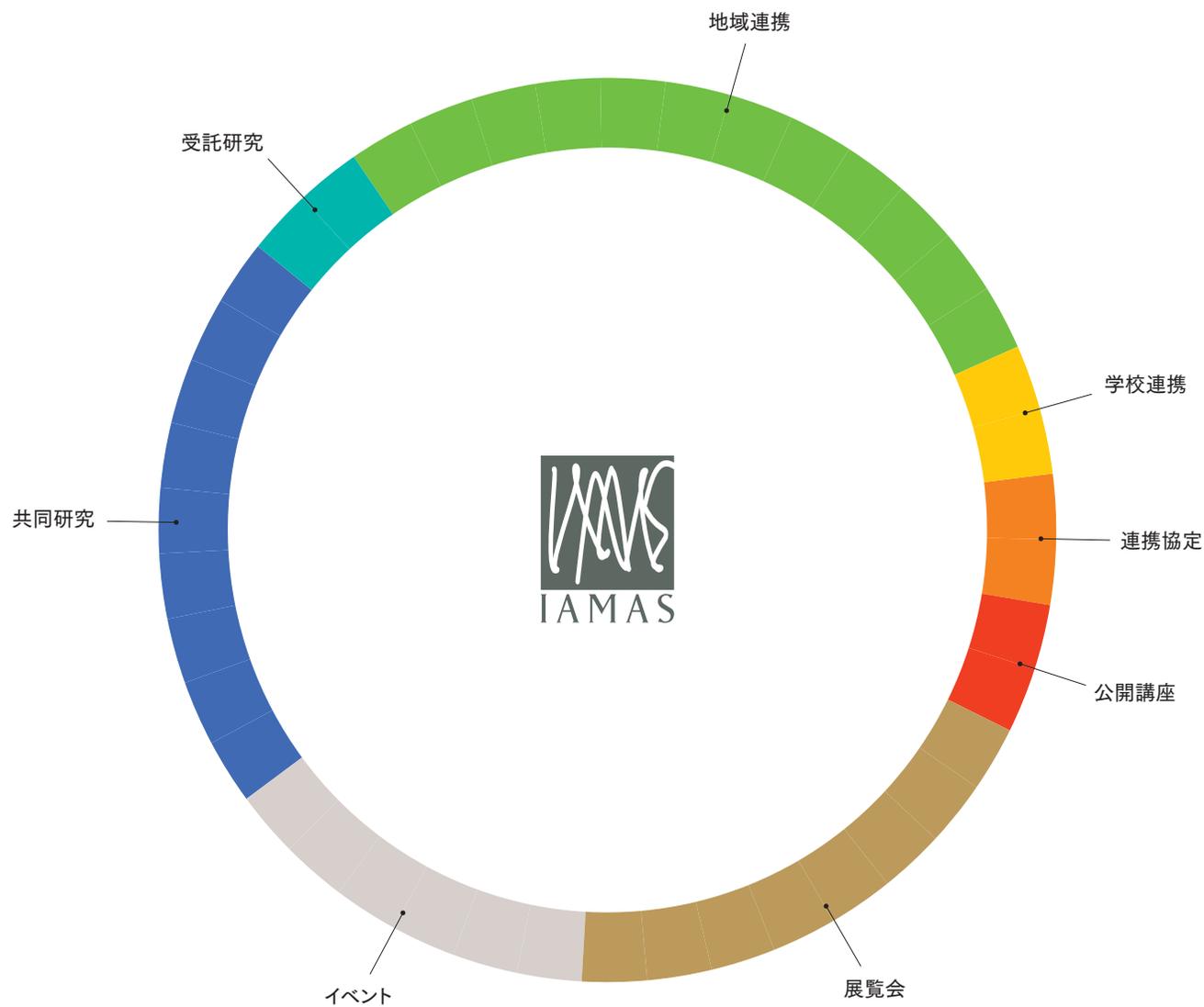
連携の成果

幼児から高齢者まで幅広い年齢層の住民の参加につながった。ラジオ局や地元DJの協力により新しいコンテンツを創出できた。IAMASの表現を活用して「皆で作る」作るという意識が新しい地域活性化につながったと主催者からも評価された。

参加教員のコメント

連携の過程で多様な人たちとの対話が生み出されながら、協働することができた。「来年はこんなことがしたい」など、参加者からも良い反応を生むことができた。

2014年度 連携事例+IAMAS関連イベント 全リスト



共同研究：
民間企業等の研究者と本学の教員が、
共通の課題に対して対等な関係で行う研究

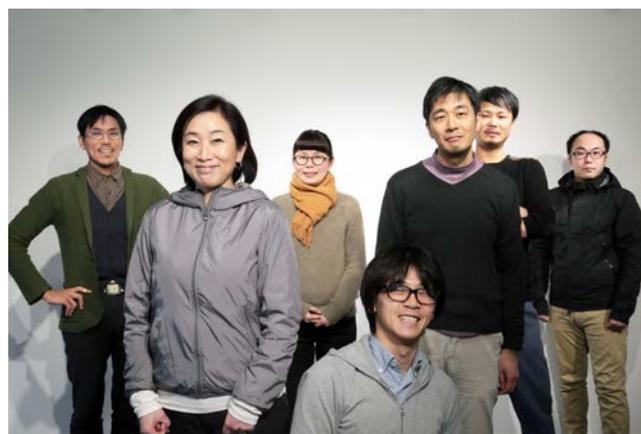
受託研究：
民間企業等から委託を受けて、
本学の教員が業務として行う研究

連携区分	研究名称	企業名/組織名	場所	担当教員等	
1	共同研究	APIを提供する工作機械を適切な理解の元で普及させるための方法の確立	ローランド ディー.ジー.(株)	浜松市	小林茂教授
2	共同研究	あしたをプロトタイプするプロジェクト (電磁場センサを利用したアプリケーションの提案)	(株)豊田中央研究所	長久手市 大垣市	鈴木宣也教授 赤羽亨講師
3	共同研究	カタルカグ:家具が語りかける将来の生活	(株)GOCCO. (協力:岐阜県生活技術研究所)	大垣市 高山市	小林孝浩教授
4	共同研究	Craft, Fabrication and Sustainability プロジェクト	(株)TAB	大垣市	小林茂教授 James Gibson 准教授
5	共同研究	ICT × C プロジェクト	大垣市(情報企画課) 青墓幼保園 丸の内保育園 中川幼稚園 (株)GOCCO.	大垣市	小林茂教授 James Gibson 准教授
6	共同研究	Smart Things プロジェクト	Global telecom company	大垣市	小林茂教授 James Gibson 准教授
7	共同研究	コスモネットとの共同研究	(株)JR 西日本コミュニケーションズ (株)コスモネット	本巣市	金山智子教授 平林真実教授
8	共同研究	ユーザーと既存企業が価値を共創するためのプラットフォーム構築	ヤマハ(株)	浜松市	小林茂教授
9	共同研究	光通信技術の高度化と活用に関する共同研究	(株)GOCCO.	大垣市	小林孝浩教授
10	受託研究	ジ・アート・オブ・ライフ・プロジェクト 2014	(株)ルネット	大垣市	赤松正行教授
11	受託研究	先端情報技術を用いた「国史跡昼飯大塚古墳」の体感型遺跡ガイダンスシステム	大垣市教育委員会	大垣市	山田晃嗣講師
12	地域連携	「メディア・地域・鉄道」プロジェクト	樽見鉄道(株) 明知鉄道(株) 長良川鉄道(株) 養老鉄道(株) (株)エフエム岐阜 (株)コスモネット	岐阜県内	金山智子教授 平林真実教授 城一裕講師 瀬川晃准教授
13	地域連携	編纂プロジェクト	垂井町観光協会 池田町教育委員会 (協力:垂井町文化財保護協会、 タリイピアセンター、 (株)小見山家具製作所)	垂井町 関ヶ原町 赤坂町 池田町	瀬川晃准教授 入江経一教授 金山智子教授
14	地域連携	ハシマ・スマイル	羽島商工会議所	羽島市	赤松正行教授
15	地域連携	羽島まちかげプロジェクト	羽島文化協会	羽島市	金山智子教授 赤松正行教授

連携区分	研究名称	企業名/組織名	場所	担当教員等
16	地域連携	美濃のいえプロジェクト	美濃市役所 美濃デザインチーム 美濃観光協会 うだつの町並み商店 県立森林文化アカデミー	美濃市 入江経一教授 小林昌廣教授 金山智子教授
17	地域連携	「かがやきライフタウン大垣 2015春のつどい」プロジェクト・マッピングに関する相談	大垣市まちづくり市民活動支援センター	大垣市 金山智子教授 平林真実教授
18	地域連携	大垣市文化事業団CIVIデザイン	(公財)大垣市文化事業団 (株)アーティカル	大垣市 瀬川晃准教授 高尾俊介研究員
19	地域連携	看護技術タブレット教材の研究会	サンメッセ(株) 中部学院大学 大垣女子短期大学 岐阜女子大学 教育産業(株)	大垣市 瀬川晃准教授 山田晃嗣講師
20	地域連携	スマートフォン・タブレット端末の福祉分野の活用研究会	(公財)ソフトピアジャパン (特非)バーチャルメディア工房ぎふ 日本福祉大学 岐阜県教育委員会 岐阜県立岐阜本巣特別支援学校 岐阜県立郡上特別支援学校 岐阜県情報技術研究所	大垣市 山田晃嗣講師
21	地域連携	Namazuru Party	羽島商工会議所	羽島市 平林真実教授
22	地域連携	福祉の技術プロジェクト	(公財)ソフトピアジャパン スマートフォン・タブレット端末の福祉分野での活用研究会	大垣市 山田晃嗣講師 小林孝浩教授
23	地域連携	ものづくりオープンメソッドプロジェクト	岐阜工業高等専門学校 美濃市役所 (有)トリガーデバイス (株)タカイコーポレーション (株)喜乃紀	美濃市 大垣市 小林茂教授 吉田樹教授
24	学校連携	Center Of Innovation Trial (COI-T) 「感性に基づく個別化循環型社会の創造」	明治大学 慶應義塾大学 (独)産業技術総合研究所 (一社)Mozilla Japan (株)チームラボ など	東京都 小林茂教授
25	学校連携	連携デザインワークショップ 「THINGS THAT MOVE」	ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(ロンドン) 神戸芸術工科大学 武蔵野美術大学	大垣市 入江経一教授
26	連携協定	(株)大垣共立銀行と産学連携に関する協定の締結	(株)大垣共立銀行	大垣市 全学
27	連携協定	岐阜県工業会と産学連携に関する協定の締結	岐阜県工業会	各務原市 全学

連携区分	研究名称	企業名/組織名	場所	担当教員等
28	公開講座	岐阜イノベーションセンター事業	日本マイクロソフト(株) 岐阜県(情報産業課) (公財)ソフトピアジャパン (株)パソナテック	大垣市 吉田茂樹教授
29	公開講座	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜公開講座 シリーズ第3弾『『笑い』の世界III～そして落 語へ～』	ネットワーク大学コンソーシアム岐阜	岐阜市 小林昌廣教授
30	展覧会	大垣駅自由通路・光プロジェクト	大垣市(市街地整備課) IAMASメディアサイト研究会	大垣市 安藤泰彦教授 平林真実教授 小林孝浩教授
31	展覧会	アートフルタウン大垣2014	アートフルタウン実行委員会 大垣市(商工観光課) 大垣商工会議所 大垣市商店街振興組合連合会 大垣市観光協会	大垣市 安藤泰彦教授
32	展覧会	IAMAS ARTIST FILE #02 『記録と行為/映像表現の現在形』	岐阜県美術館 名古屋学芸大学	岐阜市 前田真二郎教授
33	展覧会	Japanese and French traditions in the art of forging 刀匠房太郎-かぬちの技 (伝統的な鍛冶技術を活かした日仏友好発 展事業)	ブザンソン首府・ラ・シタデル城 AFJ-FC=日仏協会フランシュコンテ支部 KTK=国際刀剣会 在仏日本大使館 笹川日仏財団 岐阜フランス 浅野鍛冶屋 岐阜国際交流センター	ブザンソン (フランス) 瀬川晃准教授
34	展覧会	「光のアート・光のサイエンス」へ出展	サイエンスワールド (岐阜県先端科学技術体験センター)	瑞浪市 平林真実教授
35	展覧会	県展改革準備委員会	岐阜県 岐阜県教育文化財団	岐阜市 安藤泰彦教授
36	展覧会	「発心夢体・遊-You-スペシャルコンサ-ト」 撮影協力	岐阜県 岐阜県教育文化財団	岐阜市 安藤泰彦教授
37	展覧会	未年計画 名古屋ひつじ物語 羊飼プロジェクトの軌跡/ 井上信太 + 前田真二郎	ヤマザキマザック美術館 (株)中日新聞社	名古屋市 前田真二郎教授
38	イベント	和市和座実行委員会	Neco Republic (有)カサアンドカンパニー 岐阜市 石黒塾	大垣市 金山智子教授 鈴木宣也教授 クワクポリョウタ准教授 瀬川晃准教授 八嶋有司研究員 星卓哉情報支援専門職 池田泰教システム管理 専門職 中上淳二システム管理 専門職

連携区分	研究名称	企業名/組織名	場所	担当教員等
39	イベント OGAKI Drawing Party	芭蕉元禄大垣イルミネーション実行委員会 (株) ヤナゲン グレイセル(株) 石黒塾 近鉄不動産(株) 戸田建設(株) (株) 大京 (株) エフエム岐阜	大垣市	金山智子教授 中上淳ニシステム管理 専門職
40	イベント IAMAS 公開シンポジウム 『137億年間のイノベーションが産んだもの… そしてこれから』	(公財) ソフトピアジャパン ぎふ・ITものづくり協議会	大垣市	金山智子教授 入江経一教授 小林茂教授 城一裕講師
41	イベント Ogaki Mini Maker Faire	Ogaki Mini Maker Faire 岐阜県、大垣市、大垣商工会議所 ぎふIT・ものづくり協議会 (一社) 岐阜情報産業協会 (一社) 岐阜県工業会 (公財) ソフトピアジャパン (公財) 岐阜県産業経済振興センター 岐阜県金属工業団地協同組合 伊藤忠アーバンコミュニティ・グループ 岐阜工業高等専門学校 (株) オライリー・ジャパン	大垣市	小林茂教授 八嶋有司研究員 星卓哉情報支援専門職
42	イベント 第3回展開図武道会〜この椅子いいっすね! (Maker Faire Tokyo 2013、Ogaki Mini Maker Faire 2014 などで開催)	IAMASイノベーション工房 [f.Labo]	東京都 大垣市	小林茂教授 山下健研究補助員 高見知里技術支援専門 職
43	イベント ラジオ番組「未来授業」(公開収録)	(株) エフエム東京 (株) エフエム岐阜	大垣市	金山智子教授



IAMAS 産業文化研究センター [RCIC] スタッフ

2014年度

RCIC センター長	金山智子
教員	小林茂 瀬川晃
研究員	八嶋有司 高尾俊介 藤原広美
情報支援専門職	星卓哉
技術支援専門職	高見知里

IAMAS Annual Report 2014
—産業・地域連携報告—

2015年2月発行

監修 金山智子
編集 瀬川晃 高尾俊介 藤原広美
デザイン 小島邦康 (Artical inc.)
撮影協力 八嶋有司
発行 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]
印刷 日本印刷 (株)

IAMAS 産業文化研究センター [RCIC]
〒503-0807
岐阜県大垣市今宿6丁目52-18 ワークショップ24
www.iamas.ac.jp
0584-75-6606





表紙のデザインは年度のテーマカラーを用いており、本紙では 産業・文化・地域社会 と分野ごとに3つのセクションに分類されている。プロジェクトごとにどのように関わり進めたかが簡潔にまとめられ、わかりやすく写真を多用している。

This booklet's cover features IAMAS' 2014 color motif. The contents are divided into three section: industry, culture, and community. The booklet presents concise summaries of how the projects are related and how they progressed, using many pictures to make this easy to understand.

形態 無線綴じ製本
 サイズ 210mm x 297mm
 コンテンツ 連携成果の紹介
 連携事例+IAMAS関連イベント(共同研究、受託研究、地域連携、学校連携、連携協定、公開講座、展覧会、イベント)

Form Adhesive binding
 Size 210mm x 297mm
 Contents Joint research reports
 List of research + IAMAS-related events (joint research, commissioned research, local collaborations, interscholastic collaborations, partnership agreements, open lectures, exhibitions, events)

これまでIAMASで発行されたカタログ類をIAMASBOOKSとして再編成し、電子書籍化しました。
Catalogues previously published at IAMAS have been reorganized into IAMASBOOKS and turned into digital books.

使用方法 | How to use

PCで閲覧 | Via PC

①目次の使い方

- ・ Adobe Readerの場合
「しおり」機能を使って目次としてご利用いただけます。
- ・ Apple プレビューの場合
「サイドバー」を目次としてご利用いただけます。

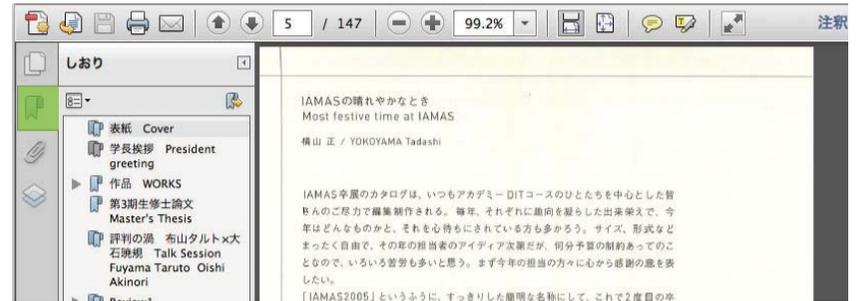
How to use table of contents

- For Adobe Reader

Access as table of contents using the “guidebook” function.

- For Apple Preview

Access the “sidebar” as the table of contents.



②検索機能で該当するキーワードや名前などを見つけることができます。

- ・ Adobe Readerの場合
「編集 > 簡易検索」もしくはコマンド + F
- ・ Apple プレビューの場合
検索窓に入力してください。

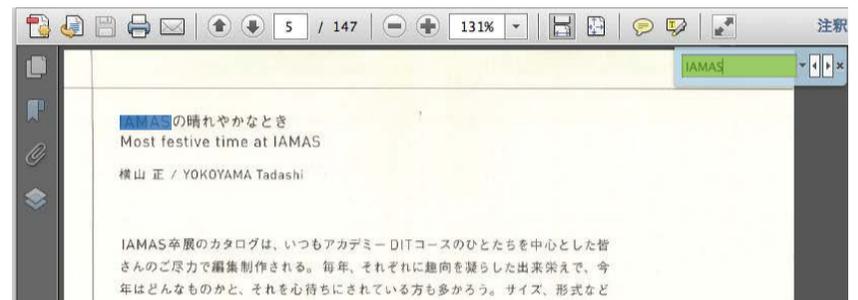
Keywords or names can be found using the search function.

- For Adobe Reader

Edit → Simple Search OR Command + F

- For Apple Preview

Type into the search window.



iPadで閲覧 | Via iPad

- ※iBooksでのご利用を推奨しています。
- ※Use via iBooks is recommended.

①目次の使い方

- ・ メニューのリスト表示から目次をご利用いただけます。

How to use table of contents

- Access from the list display in the menu.



②検索機能で該当するキーワードや名前などを見つけることができます。

- ・ メニューの検索アイコンから検索いただけます。

Keywords or names can be found using the search function.

- Search from the search icon in the menu.



Android端末で閲覧 | For Android

※閲覧する端末、アプリケーションによっては目次機能が正しく動作しない場合がありますのでご了承ください。

※Please be aware that depending upon the terminal/application used, there are times when the table of contents function will not work correctly.

IAMAS BOOKS

—産業・地域連携報告書—
IAMAS Annual Report 2014

発行日 Issue	2017年4月再編 April. 2017
編集 Editor	具志堅裕介 GUSHIKEN Yusuke
撮影 Photography	古澤龍 FURUSAWA Ryu
翻訳 Translator	ダニエル・バート DANIEL Burt
監修 Supervisor	前田真二郎 瀬川晃 MAEDA Shinjiro SEGAWA Akira
発行 Publisher	IAMAS 産業文化研究センター [RCIC] IAMAS Research Center For Industrial Culture [RCIC]

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]
503-0006
岐阜県大垣市加賀野4丁目1番地7

4-1-7 Kagano, Ogaki-shi
Gifu 503-0006, Japan

www.iamas.ac.jp
Copyright IAMAS